

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。

また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名
(ユニット名) グループホーム パッション
2F ユニット

所在地
(県・市町村名) 鹿児島県鹿児島市和田1丁目16番1号

記入者名
(管理者) 中野 美子

記入日 平成 19年 11月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念を作っている		利用者のご家族となり、本人らしく生活出来る様支援している
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全スタッフが理念を述べる事が出来る		ネームの裏に理念を入れ、日々のケアに活かしている
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関・案内板に見やすく、大きな文字で掲示している		入居時に入居者・ご家族にわかり易く説明している
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の挨拶等は必ず行い、行事の際は連絡し協力を得ている		親しい関係が築けるよう協力している
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事・活動に参加している		地域の方々との交流が出来、入居者も大変喜ばれている

グループホーム パッション

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	民生委員の方々や役立つ場がないか、お手伝いできないか話し合いを持っている		地域の高齢者の把握に努め、開かれたホームになるように取り組んでいきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全スタッフで自己評価を行っている		日々のケアを振り返ることが出来、また新たな気持ちで仕事に取り組む事が出来る
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族・民生委員の方々の都合を優先し、2ヶ月に1回開催している。		ご家族・民生委員の方々からの情報をもとに行事やスタッフ会議等行っている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	鹿児島市地域包括支援センター谷山の四元様とは電話で相談したり、指導を頂いている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が研修に参加している		入居者の中で後見人制度を行っており、把握出来ている。また、ご家族からの相談も受けている。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、資料等全スタッフに配り、意識を高めている。		身体拘束廃止委員会からの報告・内部研修を行っている。

グループホーム パッション

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>当ホームの理念・方針を説明し、ご家族の要望も含めて協議して契約を結んでいる。また、退居時は主治医も含めて協議し、理解・納得して頂いている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者の不満・苦情については、緊急ミーティングを開催し、速やかに改善できる様な体制を取っている。</p>		<p>話し易い雰囲気作り・意見に対して素直に受け止める様心がけている</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族には常に日常の状態を報告している。</p>		<p>面会時には最近の状態を報告し、事故発生時は電話にて必ず報告している。また、新聞等で行事の時の写真を掲載している。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情処理委員会を設けている。</p>		<p>苦情をサービス改善の良い機会と捉え、改善策を全スタッフにて考え、意見を出し合い速やかなサービス改善に努めている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員ミーティングで意見を聞いたり、緊急ミーティングを召集し協議・検討を行っている。</p>		<p>翌月のミーティングで結果・再検討を行い、業務の充実を図っている</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>スタッフ同士協力し合い、勤務調整を行っている。</p>		<p>行事・会議等は前もって全スタッフに報告し、勤務の調整に努めている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>必要最小限の異動を行っている。</p>		<p>離職・異動の際は混乱・不安を避ける為、入居者に合わせた挨拶・報告を行っており影響は出ていない。</p>

グループホーム パッション

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内・外部研修に積極的に参加している。	個々の能力に合わせた担当・委員会の設置を行っている。ケアの向上の為に各自のレベルに合わせた教育が必要である。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域グループホームの勉強会に参加している。	他グループホームの方々との交流から、新しい情報・ケアの取り組み方を教えて頂き、良い機会となっている。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	いつでも管理者に悩み・相談出来る	スタッフの仲も良く、プライベートの事まで相談でき、時に親睦会を開き交流を図っている。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	業務・ケアに対する想いを維持する為、地域グループホーム勉強会・研修に参加している	報告書の提出は行っているが、内部研修の場をもっと多く作って行きたい
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必ず利用者本人と会い、状態を把握している。	ご本人の意見を傾聴し、当グループホームでの生活が可能であるか、生活出来る様にするためには如何したらよいかスタッフにも相談している。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に至るまで何度でもご家族と相談を行っている。	利用者・ご本人が当グループホームで一番良い環境で生活出来るよう、ご家族の希望・相談を受け入れている。

グループホーム パッション

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活におけるご家族の希望等を傾聴し、ご家族やご本人の希望に添えるように努めている。		買い物希望に対してもスタッフが個別に対応している。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居されて間もない利用者にはまず、職員やホームに馴染んで頂けるように見守りや援助を行っている。また、これまでの生活歴や嗜好等についてご家族にお聞きしながら、ご本人と共に馴染める関係作りに努めている。		日常生活において、談話の機会を多くもてるよう努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事等、日常生活を共に送り、本人の残存能力を活用して頂ける場を持ちつつ、ご本人と職員が支えある関係を構築している。		料理・片付け・盛り付け・洗濯物たたみ等、ご本人の能力を活かせる場面を多く作り、職員と利用者が共に支え合い、学びあえる関係を構築している。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時、ご家族との会話を持つようにし、本人に関しての情報を共有する事により共に本人を支えていく関係を構築している。		家族会を開き、職員はもちろんのご家族同士の交流の場を提供できる様に努めている。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホーム内でのご本人の様子等、ご家族に報告しご家族との関係が良好なものであり、続けるよう支援している。		遠方に暮らす利用者のご家族への手紙での交流を支援し、また、職員も手紙を添える事により、ご本人・ご家族のより良い関係を支援している。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方々や旧友との面会の際は、居室でゆっくり過ごせるよう支援している。また、面会に来られた方々が再度面会に来て下さるように面会に訪れやすい雰囲気作りを心がけている。		面会時には、お茶とお菓子を用意し居室で周囲を気にせず寛いで談話できるようにしている。また、訪問したいホームである為、スタッフも笑顔で対応している。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	特に親しくされている利用者同士の関わり合いの機会を多くもてるよう支援し、また、トラブルが起こりそうな場合はスタッフが間に入りトラブルを回避するように努めている。		利用者同士の談話の機会が多くもてるようにしている。

グループホーム パッション

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	いつまでも家族であり、信頼関係を大切にしている。		入院され退居となった後も病院へ訪問し、状態を把握している。また、ご家族からの相談もいつでも受け入れている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望・意向を必ず聞き、取り入れている。		ケアプラン見直しの際は、必ずご本人とお話して把握している。また、いつでも相談出来るよう声かけを行っている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後7～10日間で、個人情報・生活プロセスを作成している。		趣味・興味あることをそれぞれに応じ取り入れ、(食事の準備・畑仕事・折り紙等)本人らしさが保てる様支援している。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日課計画表・ADL表・サービス実施記録にて把握している。		日誌・連絡ノートにて細かい事は把握し、統一したケアを心がけている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議の開催・主治医への担当者会議照会を行っている。		月末のミーティングでモニタリングを行い、全スタッフがケアについて意見を話し合っている。また、リハビリをされている方については、理学療法士からも意見を頂いている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化時は話し合いを行っている。大幅な変更時は計画を作成している。		3ヶ月ごとのモニタリング・アセスメントを行い、ケアプランを作成している。細かな変更については、連絡ノートで伝達している。

グループホーム パッション

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス記録を使用し、ケアプランに添った記録を行っている。		ご家族との関わり・定期受診等など、出来るだけ細かく記入している。また、施設介護支援経過記録に活かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・ご家族の希望・意向にはすぐ対応できる様努力している。		買い物・外出・福祉用具の購入など、出来る範囲のことで支援し、相談を受けている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの協力を得て、行事等行っている。消防訓練等年2回行っている。		その他の地域資源との関わりは無い為、積極的に働きかけて行きたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	管理者が連絡を取り、お互いの情報交換にてケアの向上に活かしている。		前ケアマネが来訪し、入居者の状態を見たり、報告し今後のケアについて意見を求めている。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	年内に地域包括支援センターとの協議を予定している		必要性に応じ、関わりを大切にしていきたい
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診・内服の変更等、ご家族の意向を聞き、主治医と相談しながら支援している。		主治医からの説明をご家族も一緒に受けることで、納得した医療を受けられている。

グループホーム パッション

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	色々な事で相談出来る医師を確保しており、治療・指示に従いケアを行っている。		受診日・時間を配慮して頂き、スムーズに受診出来ている。入居者に分かり易く説明して頂き、入居者も安心・信頼されている。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	スタッフに看護師が4名おり、日常の健康状態を把握している。		入居者の状態異変時は、主治医へ報告し指示受け・他スタッフへ報告・伝達を必ず行っている。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主治医・ご家族・管理者と話し合いの場を持ち、それぞれの意見の上、早期退院を目指している。		入院中はご本人の不安軽減の為にもお見舞いに行き、元気付けている。医療関係者から状態を聞き、帰居後の準備に当たっている。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態悪化・症状出現の度に、担当者会議を開催している。		今後の方針が決まったら、全スタッフへ報告している。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	担当者会議後、スタッフミーティングを行っている。		ご本人の心身の苦痛軽減・安らかに生活できるよう意見を出し合い、ケアに取り組み、緊急時連絡網を作成している。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族・関係者と十分な情報交換と話し合いを行っている。		混乱・不安軽減を図るため、入居前にお茶のみ等にお誘いしている。自宅へ戻られる際は、事前に外出・外泊を行っている。

グループホーム パッション

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>スタッフよりも目上の方々なので、なるべく敬語を用いるように心がけている。また、利用者の一つ一つの行為でも、否定せずいったんは共感するように努めている。</p>	<p>ご家族の意向を取り入れ、プライバシー保護に努めている</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>「何でも声をかけて下さいね」と声かけを行うと共に、夜勤の時などはゆっくりと向かい合い、まずは利用者の訴えに傾聴出来る様にしている。</p>	<p>出来る事が活かせる生活を目指し、本人のペースで生活できるよう支援している</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>スタッフが何か忙しそうにしていると、どうしても利用者の方々も声かけがしにくいと思うので、行動・表情などに気をつけるようにしている。</p>	<p>利用者の訴えを優先出来る様に努めている。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>朝の洗面時には、鏡の前で結髪などを行い、ご本人に今何をしているのか意識を持って頂けるように努めている。</p>	<p>ご家族で美容院へ外出されたり、希望に応じて職員が散髪を行っている</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備や後片付けの際には、利用者と一緒に様々な会話をしながら、盛り付け・味付けを行っている。</p>	<p>一人ひとりの機能を活かしながら、無理のないお手伝いをお伺いしている</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>利用者空腹を訴えられた時は、何か少しでも空腹が満たされるように支援している。</p>	<p>食べ物・欲しいものは一緒に買い物に行ったり、代理で買い物へ行ったりしている</p>

グループホーム パッション

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターン表を使用し、一人ひとりのパターンを把握しながら、トイレへご案内する事で日中はパンツ使用としている。		夜間は睡眠を大切に考え、無理の無い範囲でトイレご案内をしている。トレパンを使用しているが、失禁しないよう心がけている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の意思を尊重し、無理に入浴を行わず清拭等を行っている。入浴希望の方は入って頂くなど希望に添っている。		皮膚の乾燥・夏場の爽快感など感じられるように入浴剤・ゆず湯等の工夫をしていきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	時間を決める事無く好きな時間に休んで頂くように、傾眠状態になるような時は声かけし居室の方へ案内する。ベッドはいつでも休めるように整えてある。		不眠時はお茶を召し上がり談話等行い、快適に入眠出来る様に心がけている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	台所のお手伝い・洗濯物干し・たたみなど、出来る方には声かけしスタッフと一緒にしている。毎朝、廊下の掃き掃除・生活歴を活かした生花などお手伝いして下さる。		ADL低下・認知症の進行からできる事が少なくなっているが、一人ひとりの力を引き出せるよう支援していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物など見守りながら一緒に出かけたり、いつも自分のお小遣いなど確認去れる方もいる。		ご家族の意向も大切にしている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望を受け入れ、買い物・散歩・外食を行っている。他院でのリハビリを週3回行っている方もいる。		個別ケアを今後も取り組んでいく。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	映画館・レストランへの食事等、工夫をこらし行事に取り入れている。		ご家族の参加が少ないので、積極的な声かけ・日程決めが必要と考えている。

グループホーム パッション

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの電話希望・外線が入った時などは、子機を使用し居室でゆっくりと話が出来る様にしている。また、手紙を書かれた際には、スタッフも状態等を書いて同封している。		電話や手紙が出来ない方もいらっしゃるので、年賀状などお名前だけでも書いて頂いている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時は居室へご案内し、ゆっくりと過ごして頂けるよう配慮している。ご本人の誕生会など、出席して頂けるよう依頼している。また、新聞等で行事のご案内・お誘いをしている。		日頃の状態や健康面の報告を行い、本人の理解を深めている
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会や研修などの内容を全スタッフに伝え、やむを得ない場合には医師の指示やご家族の同意を得てケアに取り組んでいる。		身体拘束ゼロを目指し、定期的に会議を行い、安心・快適な生活を送れるよう取り組んでいる。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	精神面の変化が見られる時には言動に注意し、可能な限り同行するようにしている。日中は施錠せず、入居者と洗濯物干しや買い物・散歩等に行っている。		夜間帯は目が行き届かない為、ご家族の承諾を得て、出入口に風鈴やベルを設置し安全に努めている。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	1F・2Fスタッフ間で、連絡を取り合い無断外出等には十分気をつけている。日中はホールで過ごされる方が多いので、談話やレクリエーションをしながら見守りを行っている。		本人の言動・行動の変化を察知し、早めの声かけ・個々の対応を行い、事故防止に努めている
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	内服や洗剤類は鍵のかかる場所で保管・管理している。洗濯等は見守りながらスタッフと一緒にしている。		異食行為のある方は、食事・お菓子の出し方に注意をはらっている。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒に対して、見守りの強化や環境整備を行っている。月1回のミーティングで一人ひとりについて、意見交換や注意点などを確認している。研修会の参加・報告。		ひやり・はっと、事故報告を提出し、ミーティングを行い対策を考えている。

グループホーム パッション

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急連絡網を作成		安全対策委員会にて自主訓練の一環として取り組んでいく。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。また、地域の方々の協力も得ている。		火災・地震・水害等に対するマニュアルを作成している。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒等の事故が起こる可能性がある事を面会・担当者会議時に話し合い、その後の対応まで把握している。		新聞の紙面にて、リスクについて掲載した(10月号)。面会時などご家族へ利用者の日常生活において、もっと情報をお伝えしていく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日中・夜間の情報交換(申し送り)を確実にし、体調の変化・異変があった場合主治医へ連絡をし、支持を頂いている。(受診・服薬投与の指示など)		バイタルチェック・食事等の摂取状態・排泄状態をチェックし、異常の見落としがないよう心がけている
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬説明書にて、現在どのような薬を服用しているかなど把握出来る様にしている。服薬の変更については、連絡ノートなどで伝達している。		内服変更後の状態をサービス記録に残し、主治医へ報告している
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便マイナス3日を目標に下剤や水分補給にてコントロールし、便秘予防に努めている。		室内で出来る体操などを取り入れていく。排便チェックの意識づけをし、毎日の申し送りを確実にし、行う。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者の身体状況に応じて支援している。		歯科受診の援助

グループホーム パッション

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後とお茶の時の水分摂取量を測って観察する。		週2回のパン食・魚と肉料理のバランスを考え、味にも気をつけながら食べて頂いている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食事前の手洗い・外出から帰居したら必ず手洗いうがいを徹底している。賞味期限のチェックを行っており、期限切れについては破棄している。		疥癬の疑いの場合、洗身・清拭に注意し洗濯物の区別・消毒・日光浴への配慮を行っている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	消毒日を決めているが、目に余る場合はその都度実施している。食材については新しいうちに料理する心がけている。		調理の際は必ず殺菌を行っている。(手洗い等)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の両脇に心休まる花等を植える様にしている。また、危険物は置かないように心がけている。		庭には、花・野菜・木々等が植えてあり、皆様の心を穏やかにしているようにしている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵などを飾ったり、花を生けたり緑の植物等置いて、居心地良くなる様に工夫している。		入居者の認知症の状態に合わせた(混乱・異食等)空間作りを行っている
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー等を置き、気のあった方々が一緒に腰掛、談話出来る様にしている。雑誌等も設置し、独りでも楽しめるようにしている。		入居者間のトラブルが起きない環境の工夫を行っている

グループホーム パッション

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と一緒に撮られた写真や、ご本人の使い慣れた家具や衣類等を居室へ置き、安心出来る様取り組んでいる。		ご本人とのコミュニケーションの上で、季節にあわせた物を飾ったり、居室の模様替えをしている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓や居室のドアを開けたり、空調管理をしている。居室の異臭等は、直ちに処理・清掃を行い、芳香剤を設置したりしている。		個々の体質により、温度差はあるが体調不良者が出ないよう室温には十分気をつけている
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・お風呂場・トイレなどに手摺をつけ、安全に歩行できるようにしている。椅子などお尻が痛くないようクッションを使用している。		個々にあわせた居室の環境作り・整備を行い、事故防止に努めている
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には名前・ご家族の承諾があれば写真を飾っている。トイレ・お風呂場にも目印をしている。目の見えない方には居室ドアに飾りをつけたり、ディスプレイを目印として支援している。		行動・言動を察知し、不安・混乱ないようにスムーズにご案内できるように務めている。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外で活動できるような広さやベランダはないが、駐車場で日光浴や洗濯物干し・取り入れを一緒に行っている		2階では庭や土との触れ合いがない為、機会を増やしていきたい

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

グループホーム パッション

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)